

GrantPlan ベンチマークのデータについて

GrantPlanとは？

IQVIA GrantPlanは治験費用の業界ベンチマークデータを提供するツールです。治験依頼者と医療機関が治験費用について誠実な交渉を行った結果として得られた費用 (FMV; Fair Market Value) を収集することで、業界の費用の基準値 (ベンチマーク) を作成して提供しています。治験依頼者はこのデータを用いて新しい試験の治験費用を算定することで、全ての医療機関に対して同じ算定方法、市場価格に基づく費用を提示することができるようになります。この算定方法はFMVに基づくベンチマーク型コスト算定と呼ばれており、日本以外の国では一般的に用いられている施設費用算定方法となります。

ベンチマークデータは信頼できるの？

IQVIA GrantPlanでは提供する費用データの信頼性を担保するために基準を設けており、各費用項目について費用協議合意から2年以内のデータであること、3会社以上の会社から収集されていること、5施設以上のデータが収集されていること、を条件に実際の業界ベンチマークデータとして提供しています。

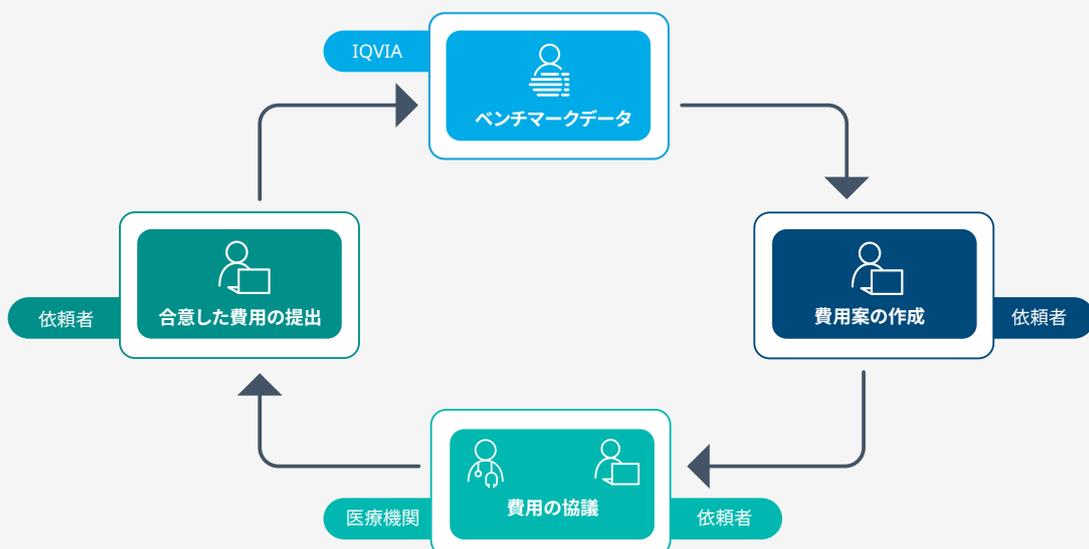
もし、費用データが十分な量収集されていない場合は、独自のアルゴリズムを用いて、日本がベンチマーク型コスト算定で治験費用を算定する場合の想定価格を提供しています。この費用にはGDP、人口、電気購入価格、一人当たりの総医療費、過去及び現在の為替レートやインフレの傾向、アメリカやアジア地域の他の国々の人間開発指数などの経済指標が用い

られています。治験依頼者はこの費用を基に日本の治験環境を考えて実際に医療機関に提示する費用を検討することができるようになっています。

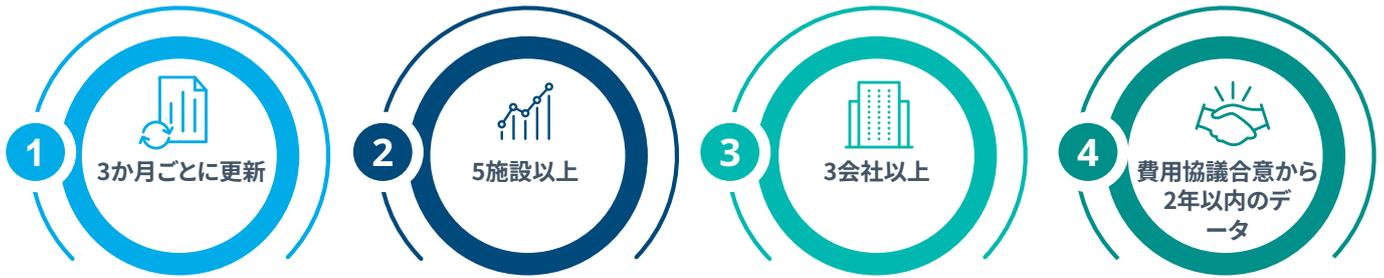
ベンチマークデータからどのように治験費用を作成するの？

治験実施計画書で規定している実施事項やそのほかの治験を実施する上で必要な項目についてGrantPlan上に列挙すると、それぞれの費用のベンチマークが4分位点で表示されます。治験依頼者はその費用を確認しながら現在の経済状況や試験の難易度等を考慮の上、医療機関に提示する治験費用や交渉における上限価格を決定していきます。医療機関の皆様が見る費用はベンチマークのデータそのものではなく、各治験依頼者がその時のベンチマークデータに基づいて試験毎に検討を行った費用となるため、同じ治験依頼者であっても、同じ費用項目であっても試験ごとに提示される費用の金額は異なることがあります。

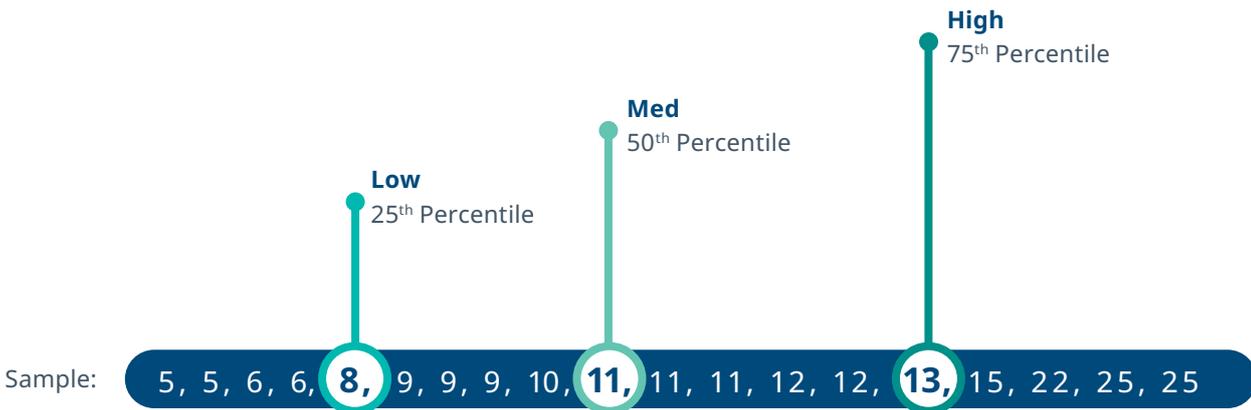
どの費用のcodeを使うかは依頼者毎に方針があり、特に海外で作成された費用案を日本で利用する会社では項目そのものの変更ができないケースがあります。治験を行う上で必要な業務について依頼者が提示した費用案に記載されていない場合は、別の項目にその業務の費用も含まれている、ということがあります。不明点がある場合には依頼者にお問い合わせください。



データの信頼性を担保するため、ベンチマークデータには 基準があります。



表示されるベンチマークから経済状況や試験デザイン等を考慮して新しい試験の費用を検討します。



ベンチマークデータは治験依頼者と医療機関の協議で作られます。

ベンチマーク型コスト算定では治験費用は治験依頼者と医療機関の協議で決まります。治験依頼者から提示された費用を参考に、業務に照らし合わせてどのくらいの費用が妥当だと考えられるか、を検討ください。治験依頼者と医療機関が合意した費用が将来のベンチマークデータとなります。